

## 主体的に自分の考えや気持ちを表現できる児童の育成

～外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動の工夫を通して～

### I 研究主題設定の理由

これまでの外国語活動・外国語科の授業を通して、本校の児童は、積極的に英語表現を聞いたり、基本的な表現を使って質問したり答えたりすることができるようになってきた。その一方で、英語を用いて自分の考えや気持ちを表現することに苦手意識を持つ児童やコミュニケーションをとることを楽しむことができない児童がいる。そこで、外国語活動・外国語科において、教師が外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動を工夫することで、児童がコミュニケーションの楽しさや大切さを実感し、主体的に自分の考えや気持ちを表現できるようになるのではないかと考え、本テーマを設定した。

### II 学年・領域

学年：全学年 領域：外国語活動、外国語

### III 研究仮説

外国語活動・外国語科において、教師が外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動を工夫することで、児童がコミュニケーションの楽しさや大切さを実感し、主体的に自分の考えや気持ちを表現できるようになるであろう。

### IV 研究内容

#### 1 外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動

##### (1) 単元設定（単元のゴールの明確化）

相手に伝えたい、相手のことを知りたいという児童の意欲を高めるような単元のゴールを設定する。

##### (2) 言語活動の工夫（「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」）

目的、場面、状況を設定する。もしくは言語活動に近づける。

#### 2 主体的に自分の考えや気持ちを表現できる

目的意識・相手意識をもって、伝えたい内容をより相手に分かりやすく伝え合おうとする児童の育成を目指す。

何のために

誰と、誰のために

### V 目指す児童像

1、2学年：英語をよく聞き、はっきりとした声で話している。

3、4学年：相手に伝わるように、自分のことを話したり、互いに質問したり答えたりしている。

5、6学年：相手によりよく伝わるように、自分の考えや気持ちを話したり聞いたりするなどして伝え合っている。